

第 29 回群馬整形外科研究会

り返した。初回手術より 16 年後、今までにない左橈骨遠位部の発赤、腫脹、疼痛を自覚され、当科紹介受診となった。CT にて左橈骨茎状突起部に溶骨性変化を認め、造影 MRI では同部辺縁に enhance 像を認めた。橈骨遠位慢性骨髄炎の診断にて 2 期的手術加療を行った。(初回手術: 搔爬, 洗浄, バンコマイシン入りセメントスプレー留置, 2 回目手術: 骨移植, プレート固定) 十分なデブリードマン, 死腔の閉鎖, 髓内血行の改善, 局所の安定化を行うことができた。現在炎症症状は沈静化を認める。

5. 非観血的徒手整復が不可能であった人工股関節前方脱臼の 2 症例

茂木 智彦, 田中 宏志, 佐藤 直樹

鈴木 隆之, 小林 亮一, 金澤紗恵子

(伊勢崎市民病院 整形外科)

人工股関節脱臼には前方脱臼と後方脱臼がある。通常は、静脈麻酔または腰椎麻酔にて非観血的整復が可能である。しかし、今回静脈麻酔下で整復ができず、後日の全身麻酔下においても整復不可能であった前方脱臼の 2 例を経験したので報告する。また、なぜ整復ができなかったのか、再置換時の所見をもって考察し、そのメカニズムについて報告する。整復困難な脱臼に対面した場合、執拗な整復操作は人工臼蓋脱臼や大腿骨骨折を引き起こす危険を伴うことを念頭に置かなければならない。このような場合は整復操作を中断し、手術を施行した施設への搬送を検討すべきである。

〈研究会講演〉

座長: 高岸 憲二 (群馬大院・医・整形外科)

「生物学的製剤時代における整形外科医の関節リウマチ治療」

米本由木夫 (群馬大院・医・整形外科)

〈主題 II〉 橈骨遠位端骨折

座長: 中島 一郎 (群馬県済生会前橋病院 整形外科)

1. 月状骨窩背側骨片 (die punch fragment) を有する橈骨遠位端骨折に対する Acu-Loc 2 Frag-Loc system の使用経験

遠藤 史隆, 浅見 和義, 内田 徹

反町 泰紀, 久保井卓郎, 高澤 英嗣

小濱 一作 (前橋赤十字病院 整形外科)

橈骨遠位端骨折の治療において、月状骨窩と遠位橈尺関節双方の関節面を含む背側骨片 (die punch fragment: 以下 DPF) の整復固定は重要である。掌側ロッキングプレート

からのスクリュー固定では背側皮質を貫かないため固定性が不十分となる可能性がある。また背側プレートでは伸筋腱への干渉の問題があり、背側からのスクリュー固定も掌側からのプレート・スクリューにより刺入方向が限定される。

今回、Acu-Loc 2 plate の Frag-Loc system (以下 FL) を用いて DPF を固定した 8 症例を経験したので報告する。代表症例は 62 歳男性で、運動中に転倒して受傷した。DPF を有する AO23-C3 の左橈骨遠位端骨折に対して Acu-Loc 2, FL を用いて固定した。術後 5 ヶ月時点で Cooney の評価法改変で Excellent であった。FL は、適応を選べば DPF に対して有効な固定法の一つとなり得ると思われる。

2. 当院における橈骨遠位端骨折 (AO 分類 C2, C3 型) の治療経験

伊藤 俊介, 細川 高史, 須藤 執道

永野 賢一, 橘 昌宏

(利根中央病院 整形外科)

橈骨遠位端骨折は locking plate の進歩により、以前は治療に難渋した骨折も良好な成績を得られるようになった。今回我々が経験した AO 分類 C2, C3 型のうち代表的な 3 症例を報告する。症例①: 34 歳男性。脚立から転落し受傷。C3 骨折にて Depuy Synthes 社 Volar Rim Plate 及び K-wire で固定した。症例②: 54 歳女性。転倒し受傷。C3 骨折にて Acumed 社 Acu-Loc2 で固定した。症例③: 59 歳女性。転倒し受傷。背側天蓋状骨片を有する C2 骨折にて Depuy Synthes 社 VA-TCP で固定した。

手術治療においては月状骨窩の骨片の整復固定が重要である。また、遠位 locking screw を先に固定し、近位 cortex screw を挿入する condylar stabilizing 法を用いることで、プレート遠位端の浮き上がりの防止、及び volar tilt の獲得に努めている。

3. 橈骨遠位端骨折のガイドラインについて

中島 一郎 (群馬大院・医・整形外科)

【はじめに】 橈骨遠位端骨折の治療に関しては、2012 年日本整形外科学会から診療ガイドラインが提示されている。しかしエビデンスが確立されていない所も多く実際の治療に際しては判断に迷う事も多い。今回以下の内容についてガイドラインの内容および実際の症例を提示させていただく。【症 例】 ①橈骨遠位端骨折変形治癒後の矯正骨切り施行例の術前の症状および治療結果 ②術後の屈筋腱断裂症例のプレート位置の問題点および治療方法 ③尺骨茎状突起骨折合併症例をどのように扱うか等である。【結 語】 橈骨遠位端骨折もロッキングプレートの普及で術後の治療成績も安定してきているが、術後のさまざまな合併症に出くわす事は多い。術後屈筋腱が損傷される症例は稀ではあるが、すでに変形治癒した状態で紹介されたり、新鮮例でも尺骨茎状突起骨折を合併している症例でその取扱